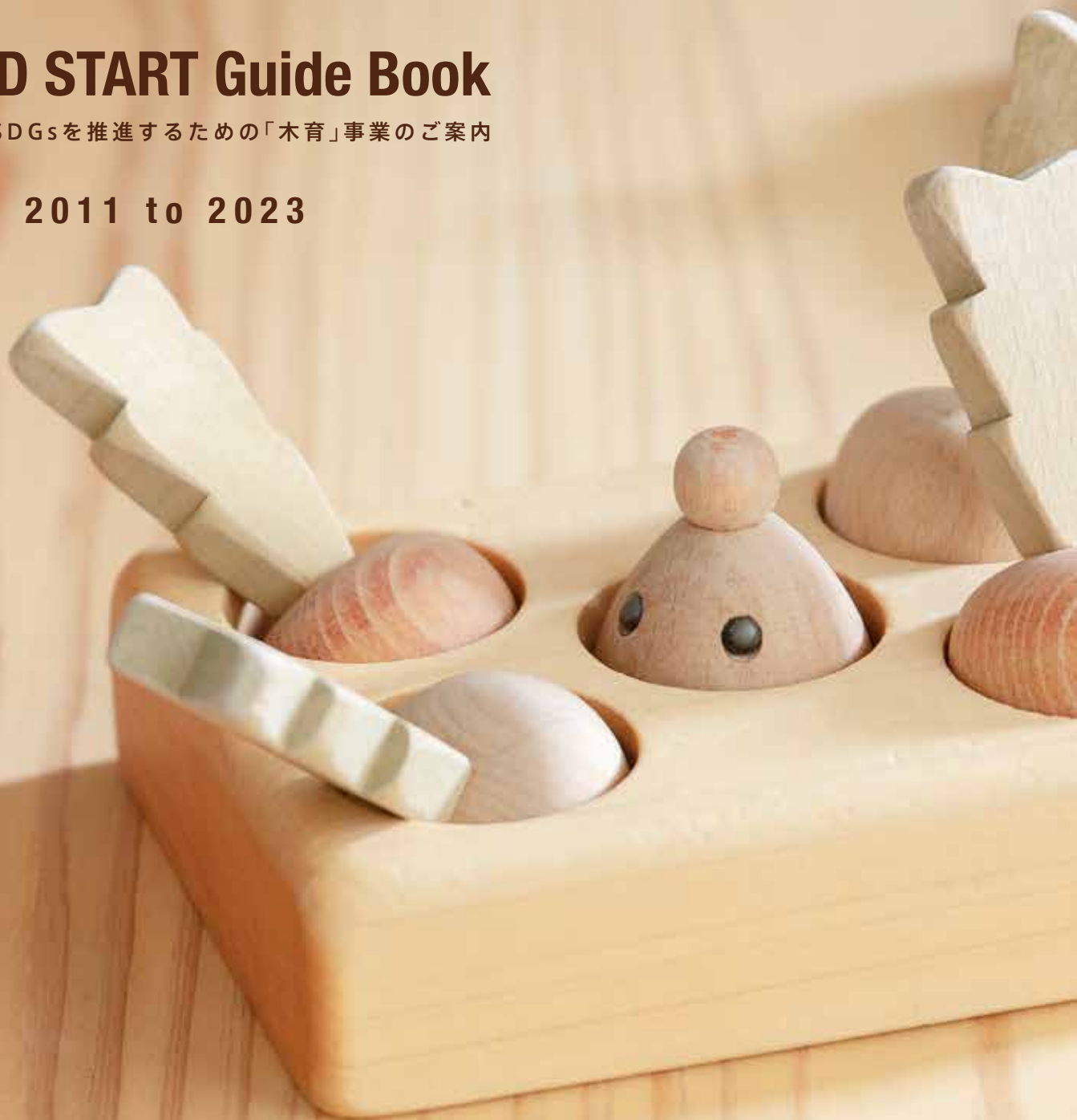




# WOOD START Guide Book

森を守り SDGsを推進するための「木育」事業のご案内

SINCE 2011 to 2023





## 木をつかい 木でつなぐ ひと 笑顔 そして 未来

東京おもちゃ美術館は、赤ちゃんからお年寄りまで多世代に向けて、豊かな出会いと多様な出番を有する美術館を目指しています。この活動を進めていく中で私たちは、「日本の木」と出会い、その魅力を感じた一方で、日本の山林が抱える様々な課題を知ることとなりました。

そこで私たちは少しずつ木とのコラボレーションを進めることにしました。おもちゃや遊びに日本の木を取り入れることによって、日常の中に木のある暮らしが実現できます。子どもたちは木のぬくもりに包まれて癒され、木のおもちゃによって五感を刺激され、想像を膨らませながら遊び、育っていきます。循環型社会の実現においては、木育によって培われた感性や体験が心の中の軸となり、すべてのいのちが尊重される社会の実現へとつながると考えます。

その象徴として展開する「ウッドスタート」は東京おもちゃ美術館が提案する木育の行動プランです。誕生祝い品として日本の木のおもちゃを子どもたちに届けることによって、子どもたちの育つ環境に木を取り入れ、心を育みます。そしてその子どもたちや周りの大人が少しずつ日本の木や森に目を向け、持続可能な社会の実現への第一歩となることを目指します。

更に木育キャラバン、姉妹おもちゃ美術館設立など、さまざまな事業を通して、私たちは日本中が、今よりももっと幸せに、持続可能な発展をしていくことを願っています。

---

### 木育とは

2004年に北海道庁が主導した「木育」プロジェクトから提案された新しい教育概念です。その後2006年に閣議決定された「森林・林業基本計画」内では「市民や児童の木材に対する親しみや木の文化への理解を深めるため、多様な関係者が連携・協力しながら、材料としての木材の良さやその利用の意義を学ぶ、『木育』とも言うべき木材利用に関する教育活動を促進する」と記されており、SDGsの実現が求められる昨今においては、さまざまな団体、企業から注目される概念として活動の幅を広げています。

---

## 森の魅力を届けるために ～私たちの行動プラン～

## 私たちが目指すもの ～木育かきくけこ～

私たちは木のおもちゃを通じて、多くの方々に「木のファン」になってもらい、そしてその先にある、持続可能な生活を目指しています。それを実現するべく、5つの柱を、下記の「かきくけこ」にまとめました。

### か 環境を守る「木育」

木育は単に木が好きになって、木を暮らしの中に取り入れれば良いというものではありません。その木材が、森林や環境をきちんと大切にしながら伐られているのかといったところまで思いを馳せ、木を使うことと環境を守ることがつながっていることをしっかりと理解する必要があります。

### き 木の文化を伝える「木育」

日本是世界最古の木造建築物である法隆寺に代表されるように、世界屈指の木の加工技術を伝えてきた国でもあります。子どもの頃から木に触れ、木で何かをつくることを通して、木と向き合うための手の技術、木の文化を伝えていくことができます。日本各地でものづくりを通して木の文化を伝えていく取組が始まっています。

### く 暮らしに木を取り入れる「木育」

暮らしの中から木の製品がなくなっていることも事実です。かつて日本の暮らしの中には、木のモノがあふれ、私たちの生活に寄り添い、支えていました。もっともっと木のもつ心地よさを五感で感じて、暮らしに木を取り入れていくことによって、世界に冠たる森林大国日本の中で木の自給自足をしていくことが求められています。

### け 経済を活性化させる「木育」

高度経済成長期を経て、日本の林業や木材加工業は衰退の一途をたどりました。森林大国日本、もっと自分たちの住んでいる国の木を使うことで、森林・林業・林産業を元気にさせ、山村・里山を中心とした地域経済を活性化させることはできないのでしょうか。木に関していえば、日本は世界に名だたる「資源大国」なのです。

### こ 子どもの心を豊かにする「木育」

その意味でも、身近なところから暮らしに木を取り入れていきたいものです。木のおもちゃは子どもの五感に働きかけ、感性豊かな心の発達を促すことと、親にとっても癒し効果があります。子どもが育つ環境に木を取り入れていくことで、木の良さ(魅力)を知ってもらい大きなきっかけにもなります。木のもつ可能性を生かして子どもの心を豊かにしていきましょう。

## 私たちの行動プラン ～さまざまなターゲットに届く6つの事業～

多くの方々に木のファンになっていただき、日本の森を守っていくためには、単一の事業、単一のターゲットだけでは実現できません。私たちは6つの事業を軸に、さまざまなターゲット、関係者にアプローチし、木への興味喚起を波及効果的に生み出すことを目指します。



### 事業の展開例

それぞれの事業を複数年展開することで、地域に木育を根付かせ、地域の森林資源への理解、地域材の利用促進、さらにはそれによる地域活性化につなげることを目指します。

事業名	メインターゲット	1年目	2年目	3年目
木育円卓会議	森林・木材加工・商工会・子育て支援・保育者	業種を超えて木育で繋がり合う	地域の企業・団体に木育推進の理解を醸成	地域内での木育普及の自発的活動・連携へ
木育インストラクター養成講座	保育や子育て支援関係者	保育者・子育て支援へ木育を伝える	保育・子育て支援の現場への木育の導入	保育・子育て支援の現場への木育の普及
木育キャラバン	子どもを中心とした地域の人々	木に触れる、木を楽しむ	地域材への気付き、木のある暮らしへの興味	地域の森林資源と暮らしを結びつける

赤ちゃんに木のおもちゃを届ける ～ウッドスタート～



はじめてのおもちゃは日本の木のおもちゃに

地域で生まれてきた赤ちゃんに、地域材で製作した木のおもちゃをプレゼントする事業、それが「ウッドスタート事業」です。この事業によって届けられる「誕生祝い品」は、地域材の活用はもちろん、「生まれた場所の文化や伝統を少しでも知って欲しい」、「生まれた場所を少しでも好きになって欲しい」という願いもこめられています。私たちはこれまで、50力以上の自治体と共にこの事業を進めてまいりました。木のおもちゃは赤ちゃんにとって「手のひらの上の森」。新しく誕生した命を、そしてご家族を、少しでも日本の木で笑顔にしたい。そんな願いをたくさんこめた地域の方々からのプレゼントです。

誕生祝い品(一部紹介)：



**埼玉県ときがわ町：「ときがわ木つみき」**  
巨木の里ときがわのお寺にある多羅葉樹の木をモチーフにしたつみきです。バランスゲームが楽しめます。



**岡山県新見市：「新見ピオーネつみき」**  
特産品のぶどうをモチーフにしたつみきです。葉は子ども達を支える手を表現しています。



**岐阜県美濃市：「うだつみき」**  
美濃の象徴である「うだつ」をモチーフに作られた、歴史や文化を知るきっかけにもなる積み木です。



**徳島県那賀町：「ゆずつみき」**  
那賀町の特産「ゆず」をモチーフにした、つみき遊びとブロック遊びが同時に楽しめるおもちゃです。



**山口県長門市：「くじらの親子」**  
かつてのクジラ漁と「命への慈しみ」の文化を伝える、車輪のついた車玩具(親クジラ)とガラガラ(子クジラ)です。



**熊本県小国町：「牛のプル玩具」**  
阿蘇小国のジャージー牛をモチーフに250年余りに植えられたと伝えられている小国杉でつくりました。



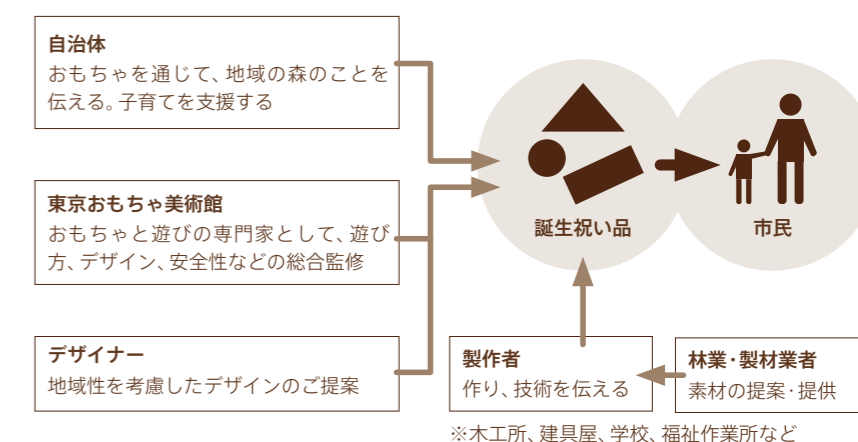
**東京都新宿区：「もぐらと野菜畑」**  
新宿区の友好提携都市である長野県伊那市や、区と地球環境保全のための連携に関する協定を締結している群馬県沼田市の職人さんが作ったおもちゃを配布しています。



**埼玉県小鹿野町：「おがのダリアブロック」**  
町の代表的な花のひとつ「ダリア」をモチーフしたおもちゃ。花びらを積んだり並べたりしながら遊べます。

地域みんなで生み出し、届ける

誕生祝い品事業は、林業、製材業者、製作者、そしてもちろん母体となる自治体の方々など、地域のみなさんの力を集約して創り上げていくものです。そうして生まれ、届けられるおもちゃは、きっと市民のみなさんにも愛され、また微力ながら地域の木材産業の促進にもつながるものと考えます。東京おもちゃ美術館は、みなさまの伴走者として、おもちゃが届くまでのあらゆる工程をサポートします。

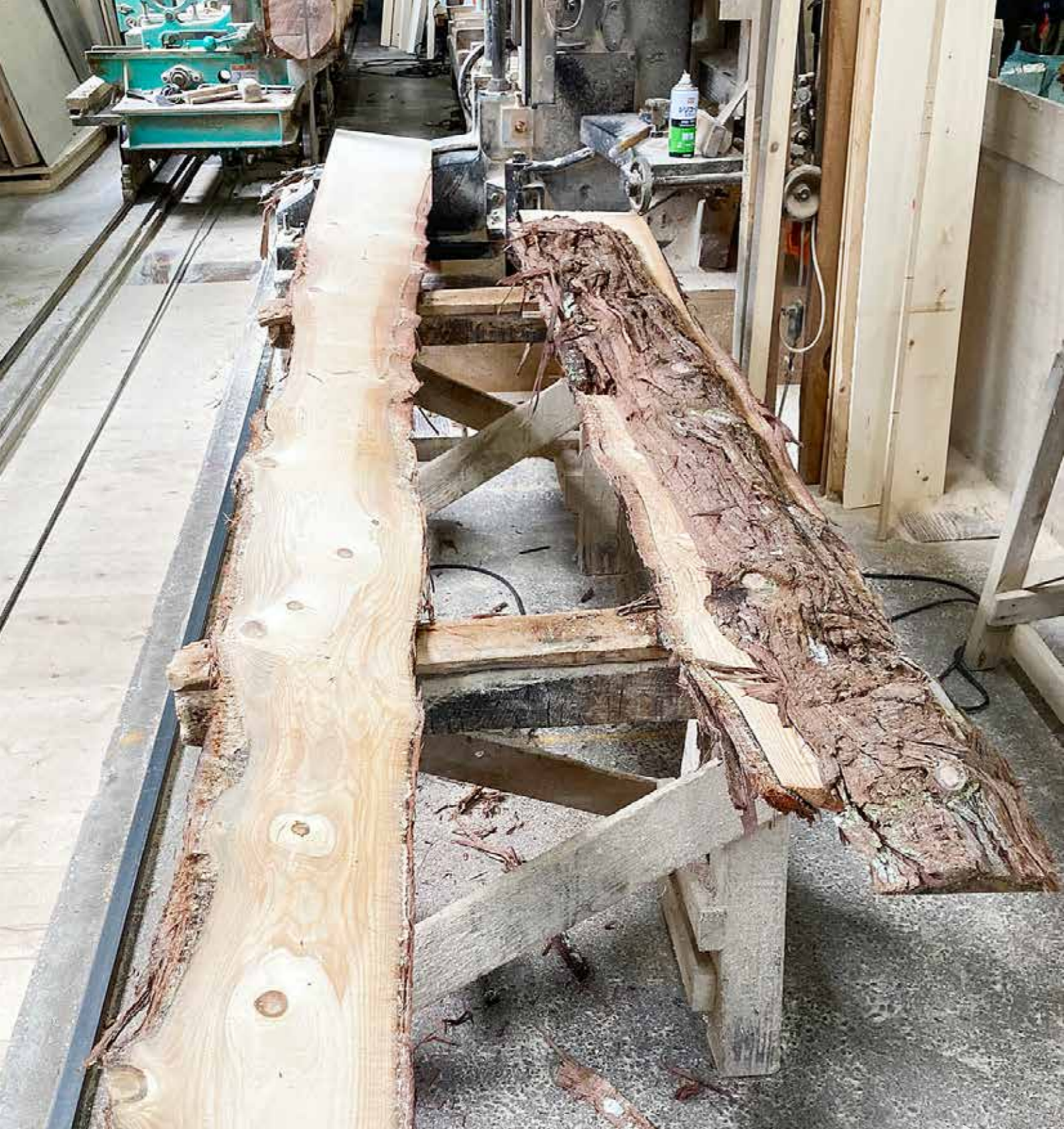


■ウッドスタートのメリット

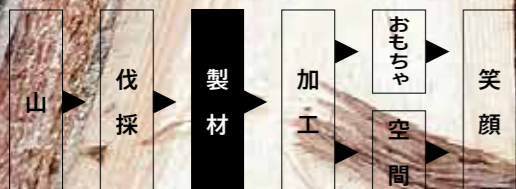
- 自治体**
- 地域材の活用による林業・木工業の経済的促進
  - 地域の森林資源・文化・歴史への理解促進
  - 贈呈方法の工夫によって、市民と行政の新たな接点の創出
  - 市民の住みやすさ向上、子育て環境の向上

- 市民**
- 感覚を刺激する良質なおもちゃとの出会い
  - おもちゃと遊びによるコミュニケーションの発生
  - 地域文化・伝統などの伝達機会の獲得
  - 地域愛、地域満足度の向上





ウッドスタートを進める～誕生祝い品ができるまで～



誕生祝い品を進めるにあたって

- 誕生祝い品事業を進めるには、私たちの理念への共有と、「ウッドスタート宣言」と「木育円卓会議」が必須となります。
- 下記の工程は基本的なパターンです。自治体によって工程は多少異なる場合がございます。
- 「1」～「11」までの工程で、大体2年程度の期間をいただいている実施となります。



- 1 東京おもちゃ美術館の視察・ヒアリング** 私たちが提供するおもちゃや遊びを実際に見ていただくことで、理念を共有いただけます。また、自治体が抱える課題や実情についてもお聞かせください。 **契約1年目**
- 2 見積書の提示・契約手続き**
- 3 実地調査** おもちゃのデザインを考案するために、実地調査を行います。おもちゃのデザインには地域の象徴的な場所やモチーフを取り入れます。また、林業の現場や製材所、木工所なども訪問します。
- 4 公認デザイナーによるデザイン案の提供** ※仕様案及び、現物サンプルを含む
- 5 地元製作者による試作開始**
- 6 試作品のブラッシュアップ** 安全性の指針に基づき、試作品のブラッシュアップを行い、玩具のデザインの最終仕様を確定させます。 **契約2年目**
- 7 玩具の製作開始・しおり作成** 最終仕様に基づき、玩具の制作を開始します。また、おもちゃの取り扱い、遊び方、デザインコンセプトなどを受け取った方にお伝えするしおりを作成します。
- 8 製品検査・納品** 安全性の指針に基づき製品検査を行い、納品します。
- 9 贈呈式・ウッドスタート宣言調印式** 地域のお子さんや製作者、デザイナーを招き、贈呈式を行います。また、東京おもちゃ美術館とウッドスタート宣言の調印を取り交わします。
- 10 木育円卓会議の開催** 木に関わる様々な人たちが一堂に会して円卓を囲み、木育に取り組んでいくための仕組み作りや協力体制の基盤作りを目指して様々な議論を行います。 **詳細：P.11にて**
- 11 誕生祝い品の配布の開始** 誕生祝い品と同時に、書籍「赤ちゃんからはじまる木のある暮らし」としおりをセットでお渡し、子育てに木を取り入れるヒントを提供します。 **契約3年目**

ウッドスタート概算お見積り例 ※出生数：100人の場合

■契約1年目(調査・試作)	
ウッドスタート加盟費(1年目)	¥300,000
<b>3～6</b> ※デザイン2種、サンプル2種、試作1種 仕様確定までの費用を含む	¥900,000
調査・会議等旅費・各送料	別途お見積り
参考概算：¥1,200,000～	
■契約2年目(製作・実施)	
ウッドスタート加盟費(2年目)	¥100,000
<b>7</b> 出生数100名×単価¥10,000想定 ※任意 しおりデザイン製作費	¥1,090,000 ¥60,000
<b>8</b> 1種製品検査費・住民対応窓口 ※任意 木育書籍	¥80,000 ¥120,000
木育円卓会議・調印式・緊急対応費等旅費・各送料	別途お見積り
参考概算：¥1,450,000～	

プロモーション動画の撮影

導入費概算：約60万円～

おもちゃの開発と同時に、開発までのプロセスやその理念を伝えるためのプロモーションビデオの撮影も承ります。市民のみならず、素材生産や加工を経て、おもちゃが出来上がっていることをビジュアルでお伝えすることで、地域の森林環境や技術、くらしが繋がっていることを実感していただけます。



参照：和歌山県高野町「もくもく森林鉄道」

動画をご視聴いただけます





あなたの町に、おもちゃ美術館がやってくる～木育キャラバン～



## 木育キャラバン

開催費概算：約150万円～



### 木のおもちゃに触れる2日間の「体験」の場

体育館や公民館など、地域の場所をおもちゃ美術館に変身させる事業、それが移動おもちゃ美術館こと「木育キャラバン」です。

さまざまな木のおもちゃを4tトラック1台分もの物量にてお届けする木育キャラバンは、多くの親子の笑顔を生み出すと共に、木のおもちゃの魅力を体験いただける時間を提供します。

### ■木育キャラバンの特徴

#### たくさんの笑顔を生み出す「遊び」体験

赤と緑の桐箱に、温もり溢れる良質な木のおもちゃと遊びをたっぷり詰め込んでお届けします。

#### 木のおもちゃに触れる「木育」体験

木のおもちゃに触れることで、子どもたちには木のぬくもりを、大人にとっては魅力ある地域資源や森林を見つめ直すきっかけを提供します。

#### 地域の方々参加型の「多世代交流」体験

地域のボランティアが来場者とおもちゃの架け橋となり、出会いの場を作り上げます。

### ■木育キャラバンのメリット



自治体

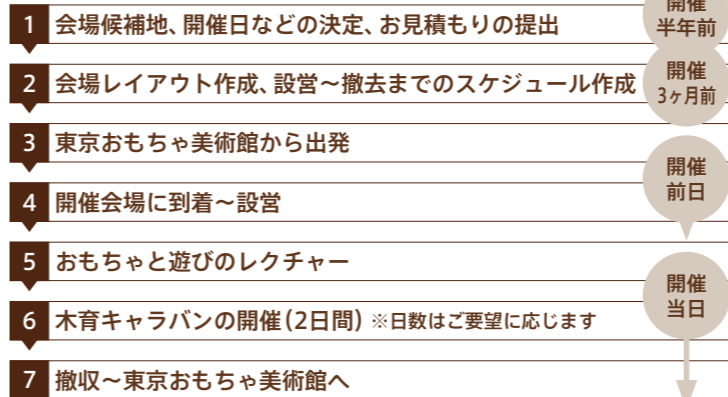
- 市民が楽しみながら木に触れることができる機会の提供
- ボランティアなどの活用によって、地域活性化、交流の場の創出
- 誕生祝品など、木育に対する活動の宣伝の場
- 地域の木材関連企業、産業、技術などのPRの場



市民

- 感覚を刺激する良質なおもちゃとの出会い
- おもちゃと遊びによるコミュニケーションの創出
- 地域の木育活動に対する興味関心の向上

### 木育キャラバンの流れ



地域の方々と共に作り上げるのも木育キャラバンの魅力の1つ。開催前には遊びのレクチャーも行い、みんなで笑顔を生み出す場を作ります。

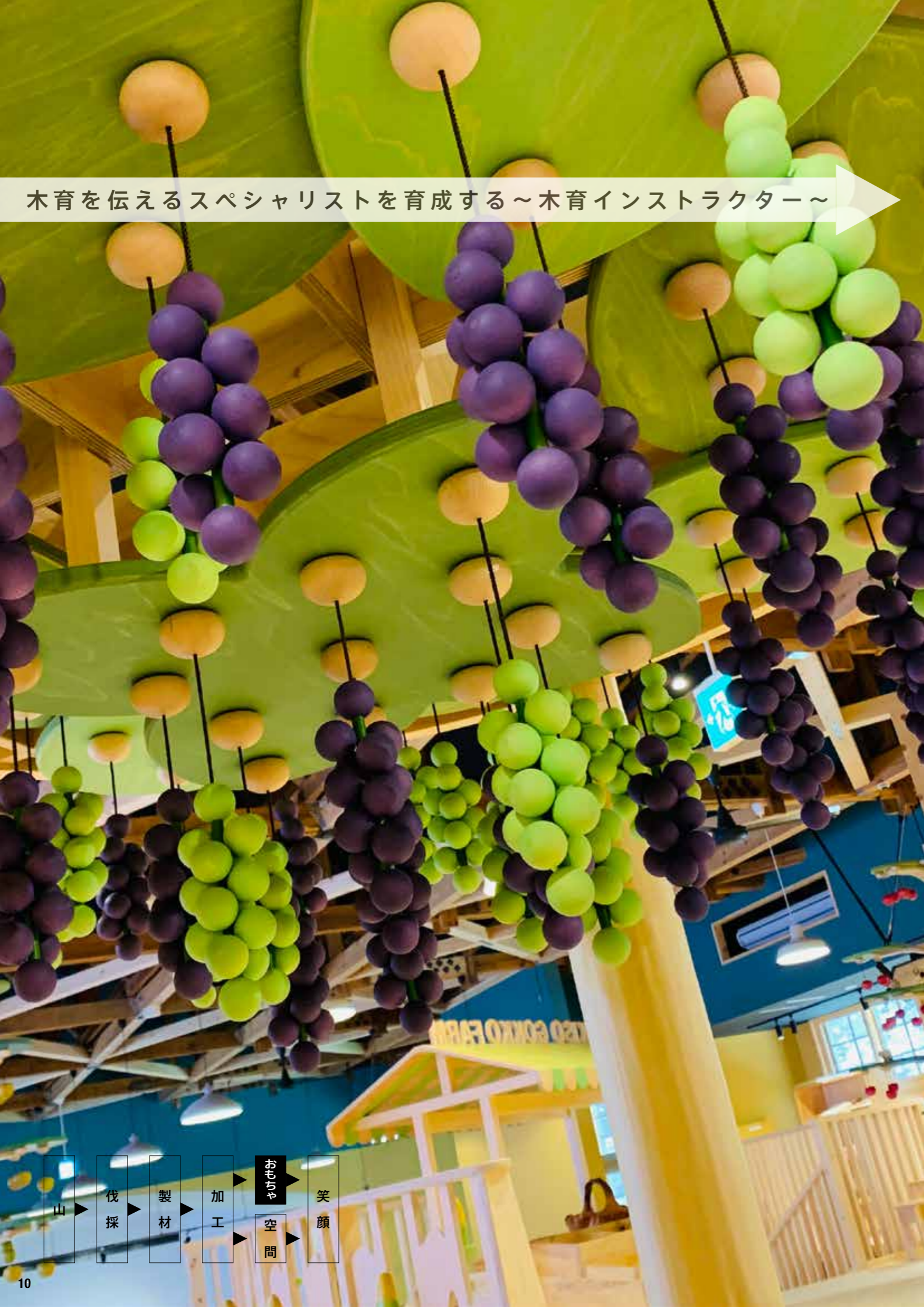


2日間の開催中、自由に遊んでいただくことはもちろん、イベントやワークショップなどの同時開催も可能です。地域の職人、子育て支援団体の活躍の場としても、ご利用いただけます。

### 自治体様限定プラン「おもちゃで遊ぼう！」

遊び場やおもちゃに制限のある子どもたちが思い切り遊んで笑顔になれるよう、木育キャラバンでも使用しているおもちゃを詰め込んだ「おもちゃ箱」を貸し出します。市内の保育園、幼稚園を巡回するなど、不特定多数の方々との接触を避けながら、良質なおもちゃで遊ぶことが可能です。





木育を伝えるスペシャリストを育成する～木育インストラクター～



木育インストラクター

開催費概算：約40万円～

さまざまなジャンルを対象に、「伝える人」を育てます。

保育や子育ての中での「木育」とは、子どもが木とふれあい、木に学び、木と生きる取り組みです。この講座では、園庭の自然物の活用や、木製品を保育や暮らしの中に取り入れる方法を学びます。また、木で創作する心地良さや面白さを体験することで、木に触れる楽しみ方を考えます。暮らしの文化を木で築き上げてきた日本人、その将来を担う子どもたちには、木のぬくもりや温かさを肌で感じさせることが大切だと考えています。木育を通して、感性豊かな心を育むことを目指します。

講座内容に関して

主にお子さんと接する関係のお仕事(保育士、幼稚園教諭、子育て支援等)の方が多いですが、その他企業、自治体、子育て中の方など、広く一般の方々も受講いただけます。自治体主催にて行う場合は、地域の特性を活かしたフィールドワークなども盛り込んでいます。

専用のテキスト・教材をご用意します

【基本プログラム内容(10:00～16:15)】

- 木育概論：木育のはじめの一歩(90分)
- 木育プログラムの体験実習：遊んで学ぶ木育プログラム(90分)
- 木育プログラムづくり：グループワーク、カリキュラム企画・開発(90分)
- 認定書授与



■木育インストラクターのメリット



自治体

- 市民にとっての学びの場所の提供
- さまざまな異業種、異年齢の方々の出会いの創出
- 木育に対する市民理解の向上、自治体の活動の認知
- 保育園、幼稚園などの子育て施設に、木育教育の導入



市民

- 新しい知的好奇心の創出
- 子育て・子育て環境、家庭における木育の導入
- さまざまな異業種、異年齢の方々の出会いの場
- 大人自身の学びと、それを受け取る子どもたちへの知識の伝達

■開催までの流れ

- 1 お問合せ・御見積 諸条件について確認後、お見積もりをいたします
- 2 日程調整 講師との日程調整を行い、開講日を確定します
- 3 講座のご案内 主催者様にて広報、受講受付を行っていただきます
- 4 講座前日 講師と一緒に、会場セッティングを行っていただきます
- 5 講座当日 当日の受講生対応は主催者様にて行っていただきます

木育円卓会議に関して

誕生祝い品はじめ、全ての事業をシームレスにつなぐアイデア創出の場

森林や林業・林産業に関わる「木の専門家」たちと、行政や幼稚園・保育・子育て支援関係者で「暮らしの中で木を活かす人」たち、いわゆる川上から川下までの木に関わる様々な人たちが一堂に会して円卓を囲み、木育に取り組んでいくための仕組み作りや協力体制の基盤作りを目指して様々な議論を行うものです。この円卓会議がきっかけとなり、新たに木育に取り組み出す地域が増えてきました。木育は「つながりのキーワード」という元来のコンセプトのもと、この円卓会議で様々な立場の人や地域がつながりつつあります。



■木育円卓会議 開催までの流れ

- ①形式(クローズ型/オープン型)やテーマをご相談の上、決定いたします。
- ②テーマに合わせ、参加していただきたい方の選出をしていただきます。  
※お声かけは原則主催者様にて行っていただきます。(活発な議論のために10名以内が理想的)
- ③参加者やテーマに合わせ、コーディネーターが準備を進めます。
- ④当日は地域を木育推進によって活性化させるため、参加者にはそれぞれの立場からご発言をしていただきます。

開催費概算：約20万円～

## 全国に広がる「姉妹おもちゃ美術館」

姉妹おもちゃ美術館

設立費概算：約2億円～

### 建物を創る。人を育てる。そして、物語を産み出す。

東京おもちゃ美術館の「木育」、「多世代交流」などのコンセプトにご賛同いただいた皆様と共に地域ならではの自然と文化の魅力溢れる「姉妹おもちゃ美術館」の設立を進めています。

これは日本全国各地の豊かな自然とその土地に伝わる文化を「おもちゃ」や「遊び」、さらには「空間」を通して伝え、受け継ぎ、育む空間を全国に広めることを目的としています。本誌に記載しているさまざまな木育推進事業の拠点としての機能はもちろん、観光収入の獲得や、子育て支援、高齢者の居場所づくりなど、多面的な価値の提供を目指す事業です。

### 全国に展開するおもちゃ美術館



#### 東京おもちゃ美術館(東京都新宿区)

全ての姉妹おもちゃ美術館のロールモデルとなった当法人運営の施設です。テーマごとに旧校舎の11教室内で、さまざまな体験ができます。



#### やんばる森のおもちゃ美術館(沖縄県国頭村)

沖縄本島の北に位置する同館では、世界遺産にも登録された豊富な自然の中でヤンバルクイナなど、沖縄ならではの魅力を伝えるさまざまなおもちゃに出会えます。



#### 長門おもちゃ美術館(山口県長門市)

日本海に面した道の駅「センザキッチン」内の施設を木質化。美術館本館と同時に、日本唯一のキッズクルーズ船「弁天」の乗船も人気のコンテンツです。



#### 花巻おもちゃ美術館(岩手県花巻市)

閉店した百貨店の内装をリノベーションし、岩手県木材が溢れる美術館へ。約30種類もの多樹種で構成された空間に、花巻の文化を伝えるおもちゃが並びます。



#### 焼津おもちゃ美術館(静岡県焼津市)

漁業で発展してきた歴史を持つ焼津市。海の力強さと、そこで生きる生命の魅力を、木のおもちゃを通じて感じることができる「海と木」の美術館です。



#### 徳島木のおもちゃ美術館(徳島県)

全国で初めて「県立」のおもちゃ美術館としてつくられました。徳島県内各地から集められた木を使った空間は、訪れた方々を癒やしてくれます。

### 姉妹おもちゃ美術館の展開

前述の6館の他に、2023年までに、全国のおもちゃ美術館は12館になる予定で計画を進めています。それぞれの地域の文化、特色を活かしつつ、木育の推進、多世代交流、子育て支援などの拠点を、全国の皆様と共に進めていこうと思います。

※開館の時期などは、別途HPなどでご確認ください



### その他空間木質化事業について

姉妹おもちゃ美術館よりも小規模の、内装木質化空間のデザイン監修を承ることも可能です。詳細に関しては、別途お問い合わせください。

施工事例：  
岐阜県大野町  
「子育てはうすばすてる」





木育の進め方に正解はありません。ウッドスタート宣言、さまざまな手法で木育推進に取り組んでいる事例をご紹介します。

## 長野県 塩尻市 2013年 ウッドスタート宣言



木育フェスでも人気のかんなくずプール



実行委員会メンバーでの記念撮影

### ウッドスタートで幅広く「木育」の認知を実践

塩尻市は長野県中部に位置し、古くから交通の要衝として栄え、北アルプスを望む田園風景が広がる、人口約7万の自然豊かな都市です。都市近郊型の利を生かした農業が盛んで、特にブドウを原材料とするワイン醸造は地場産業として脚光を浴びています。また、伝統産業として発展してきた「木曾漆器」は400年以上の伝統を誇り、今なお伝統技術が継承されています。一方で漆器産業を支えた森林は、近年では木材生産機能が低調傾向にあります。市の面積の8割を占める森林が持つ多様な機能を活かすため、今後は森林再生への取り組みを進めていくことが重要となっています。

塩尻市の木育は商工会議所が旗振り役となっています。きっかけは、商工会議所の会員事業所からの相談で、漆器需要低迷の中、塩尻で『木育』を広めることで販路開拓の一助としたいというものでした。当初は『木育』という言葉の認知度も低く、成果が得られませんでした。2011年に行政と一緒に宮崎県で開催された「木育キャラバン」を視察したことが転機となり、塩尻市でも「木育キャラバン」を開催するための実行委員会を立ち上げ、「木育フェスティバルin信州しおじり」(以下、「木育フェス」という木育イベントがスタートしました。2013年にはウッドスタートを宣言し、赤ちゃんの頃から木に親しめる環境を整えました。この事業は子育てしやすい町日本一を目指す塩尻市のビジョンにも合致しており、塩尻市で子育てすることのメリットの一つにもなることを願って継続しています。

「ウッドスタート」や「木育フェス」、「木育サミットin塩尻」など県内初となる木育事業は『木育』を塩尻市の新たなブランドとして県内外にアピールすることに繋がっています。「ウッドスタート」や「木育フェス」の継続は市民にも『木育』という言葉が浸透させ、塩尻オリジナルの木のおもちゃパッケージ「しおじりウッドトイボックス」の各種イベントなどでの活用や、保育士を対象とした「木育インストラクター養成講座」の開講は実際の現場での木育推進に活かされています。「木育フェス」では、川上から川下までの関係機関を集めた実行委員会を構成し、あらゆる業界、世代を巻き込むことで長く続けるための体制づくりと次世代への継承を実現しています。毎年「木育円卓会議」での継続的な意見交換も行い、補助金に頼らない協賛金による運営も実現しています。

すでに地球温暖化は深刻な問題となっていますが、CO2削減は木育の原点であり、森林再生の核となるキーワードであると考えます。今後は親子で森林再生に関わるイベントの開催を目標に、『木育』を継続し、重要性を訴えていきたいと思ひます。

## 岡山県 西粟倉村 2013年 ウッドスタート宣言



あわくらトイプロジェクト(小学生の取り組み)



あわくらトイプロジェクト(中学生の取り組み)

### 「百年の森林(もり)」と共に学び、未来を創る

西粟倉村は岡山県の東北端に位置し、村の面積の約93%が森林で、そのうちスギ・ヒノキの人工林が84%占める林業の村です。村では、平成の大合併の折に、合併しない選択をしたことを契機に、2008年に「百年の森林(もり)構想」を掲げ、放置されてきた山林の手入れを村が行い、林業の六次化に取り組んで来ました。森林や自然環境と紐ついた新たな価値を生み出し、50年後も自然・人・社会が在り続ける「持続可能な村」を目指し絶え間なくチャレンジしています。「先人たちが遺してくれた森林をここで諦めず、村ぐるみであと50年がんばろう。そして美しい百年の森林に囲まれた上質な田舎を実現していこう。」こうした想いを持ってチャレンジしてきたことが共感を呼び、1ターンの移住が進む潮流が生まれました。

さて、「木育」の定義は知育・環境教育など、様々な捉え方がありますが、西粟倉村では、「豊かな森林が身近にある環境であるからこそ、村の子どもたちには幼いころから森や木に触れて、森林からの恵みを感じることで、地域への愛着を持ってもらい、感性豊かな人間に育って欲しい」という思いをもって、2013年より「あわくらウッドスタート」を始めました。あわくらウッドスタートでは、村の木工事業者が、村の山から切り出された木で作られたおもちゃを、生後1ヶ月の赤ちゃんへプレゼントしています。赤ちゃんは、初めて出会う木のおもちゃを、見つめたり、振り回したり、あるいは口に咥えてみたり、赤ちゃんならではの五感を通し、体感します。

また、「First Toy」(ファーストトイ)を受け取ったお父さん、お母さんも満面の笑顔でその様子を見守っており、子どもたちが木に親しむことで、ご家族にも木のぬくもりや森を感じてもらえる機会になっています。

2020年からは、幼い子どもたち(0歳~5歳)のおもちゃを村の子どもたち(小学生・中学生)が考える『あわくらトイプロジェクト』が始まりました。おもちゃを与えられる側であった子どもたちが、ちいさな子どもたちの気持ちを考えながら誰かに届くもの作りの授業を進めることで、人に対する思いやりの心を育てていきます。

「百年の森林(もり)」と共に学べる環境が村の大きな魅力となり、成長した感性豊かな子どもたちが、これからの西粟倉村の未来を考え、創っていく。ウッドスタートを通して、そんな環境が根付く村にしたいです。

## 秋田県 大館市 2019年 ウッドスタート宣言



お茶っこサロンのワークショップ(人材育成)



木育キャラバン(木育機会の創出)

### 「場」、「機会」、「人材育成」をキーワードに木育を展開

大館市は秋田県の北東部に位置し、人口が約7万人、面積の約8割を山林が占めています。年輪の幅が揃い、木目が細かく美しい特徴がある日本三大美林の一つに数えられる「秋田スギ」の主要な産地として有名な地域です。しかし戦後、植栽されたスギ人工林が本格的な利用期を迎え、人工林の手入れ不足が問題化していました。

そこで、幼少期から木とふれあい、木に学び、木と生きることを学び、森や自然に触れ、林業に対する理解と意識の醸成を図りながら、木材製品の需要拡大に繋げるために、令和元年9月21日に「ウッドスタート」を宣言しました。

誕生した新生児におもちゃを贈る誕生祝い品事業では、「曲げわっぱ」の材料で製作した「百年杉の森の積み木」(製作: 株式会社大館工芸社)、秋田犬をモチーフにした「秋田犬ブルトイ」(製作: 株式会社サンテックス)を大館産木材を使用し、地元企業が製作することで地場産業支援と子育て環境の充実を図っています。

大館市では木育を展開するためには①普及啓発を行う場(スペース)、②機会(イベント)を設けること③人材の育成が必要と考えました。

そこで普及啓発の場として、令和元年度に秋田県水と緑の森づくり税事業を活用して、木育ひろば(託児室を親子で木に直接ふれあえるようにリニューアル)の整備を行いました。

人が集ようになったことで、市内の子育て支援へ輪が広がり、親子が木でおもちゃを作る体験セミナー等が度々開催されるようになりました。

また、木育の機会として定期開催している木育キャラバンは、多くの親子連れで賑わっています。

そして、人材の育成として令和元年度より毎年木育インストラクター養成講座を開催し、これまでに67名が認定され、その中から子育てを終えたメンバーで構成する子育て支援グループができ、乳幼児から高齢者までが多世代にわたり交流する場として「木のおもちゃの広場」や「お茶っこサロンのワークショップ」が小学校や高齢者施設で開催される等、幅広い年齢層へ広がりを見せています。

今後は多世代が楽しみ、繋がり、笑顔になるように、新たな木育を担い関わっていくであろう、若年層にも参加を呼び掛けて、活動の輪が広がるようにしていければと考えております。

## 東京都 檜原村 2014年 ウッドスタート宣言



2019年に建設した「おもちゃ工房」



誕生祝い品「むらのたからばこ」

### 「トイビレッジ構想」の実現を目指し、姉妹おもちゃ美術館を創る

檜原村は、東京でありながら面積の93%が森林という、とても自然豊かな村です。古くは炭焼きが盛んで、江戸で消費されていた木炭の多くが檜原産でした。近年では、環境保全のための間伐や、道沿の針葉樹を広葉樹に植え替える景観整備、小・中学校や図書館の木質化、地場産材を使った村営住宅の整備、木材のブランド化など、多くの取り組みを通じて、豊かな森林資源を活かした地域の活性化に取り組んでいます。

2014年からは「日本一有名な木のおもちゃの村」になることを目指して「檜原村トイビレッジ構想」の検討を開始。「木工品やおもちゃの製造による、木工・おもちゃ産業の推進」、「森のおもちゃ美術館等を活用した子育て支援・木育・観光の拠点づくり」、「専門学校等と連携した木工技術者の人材育成」を三本柱とした取り組みを始めました。構想実現の一手として、2014年12月には「ウッドスタート宣言」を行い、以降、村で生まれた赤ちゃんに対して村の木で作ったおもちゃをプレゼントしています。生まれてくる子どもを、小さな頃から檜原村の木でやさしく包み込み、木に対する親しみや理解を深めてもらおうという取り組みです。プレゼントしているおもちゃは、村内事業者が村の木を使って製作しており、村内産業の活性化、地場産材の活用促進、地場産材のブランド化につながるものと考えています。また、2019年には、新たに建設した「おもちゃ工房」においても木のおもちゃ作りがスタートしました。2021年11月3日には、トイビレッジ構想の要である「檜原 森のおもちゃ美術館」がオープン予定です。

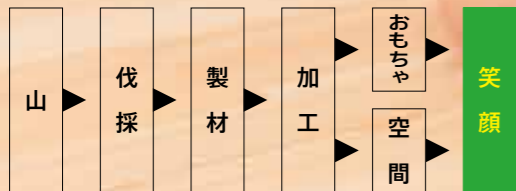
イベントについては、毎年夏祭り会場の一角で行う「木育キャラバン」が大変好評をいただいております。来場者数が年々増加していました。2020年、2021年と、コロナ禍においてこうしたイベントは休止していますが、ウッドスタート事業でプレゼントする新規おもちゃの企画開発に注力するなど、檜原村の木育への取り組みは着々と前進を続けています。

上記以外にも、さまざまな取り組みをされている自治体があります。また全国の誕生祝い品のデザインなども実にバラエティに富んでいますので、詳細は当法人の管理する「木育ラボ」にてご確認ください。

木育ラボ

検索

日本の木がもっともっと身近になり  
 子どもたちの未来が少しでも明るくなること  
 それが私たちの願いです



インフォメーション

東京おもちゃ美術館主催事業「木育サミット」※林野庁補助事業

2014年から始まった木育サミット。木に親しみ、木を活かし、木と共に生きていく「木育」の活動を、多くの人に知ってもらうため、全国各地の先進的な木育活動を紹介し、継続的なネットワーク構築とともに木育の普及に努めています。

過去の開催においては、ウッドスタート宣言自治体にご登壇いただいたり、林野庁長官とウッドスタート宣言自治体の市町村長にお集まりいただき、各地の取り組みや今後の展望について意見交換をしていただきました。

本事業は、毎年継続的に開催しております。詳細は専用のwebサイトにてご確認ください。

過去の自治体登壇例

●秩父市 ●大野町 ●越知町 ●那賀町 ●長門市 ●檜原村 ●西予市 ●久万高原町 [木育サミット](#) [検索](#)

回数	開催地	メインテーマ	参加者数
第1回	東京学芸大学芸術館(東京都小金井市)	語り合おう 木育の「今」と「未来」	約450人
第2回	新宿文化センター大ホール(東京都新宿区)	木を繋ぐ 木で繋がる 木から始まるコラボレーション	約600人
第3回	レザンホール・塩尻市文化会館(長野県塩尻市)	木育を「アルプスの麓」から考える	約600人
第4回	ティアラこうとう(東京都江東区)	日本の未来を木育が創る	約700人
第5回	秩父宮記念市民会館(埼玉県秩父市)	あらゆるライフステージを木育で彩る	約600人
第6回	あわぎんホール(徳島県徳島市)	四国の森から始まる「木育」の話	約700人
第7回	木材会館(東京都江東区)	木育が創る・動かす 日本の未来	約500人
第8回	オンライン開催	持続可能な社会のために木育ができること	約500人
第9回	オンライン開催	つながる木育 つなげる木育	約850人
第10回	オンライン開催	木育、これまでの10年 これからの10年	約850人



地域活性化センターとの連携

東京おもちゃ美術館と一般社団法人地域活性化センターは2015年から木育推進の連携協定を結んでいます。上記の木育サミットや各種イベントを共催しながら、「ウッドスタート」を軸とした木育活動の全国自治体への普及啓発によって、地域活性化に寄与することを目指しています。



芸術と遊び創造協会について

おもちゃと遊びを通じ様々な対象者に対し、遊び環境、子育て環境、生活環境をより豊かにするための支援活動を展開しています。東京おもちゃ美術館の運営、病児の遊び支援、高齢者アクティビティや保育者向けの各種講座、おもちゃコンサルタント等のおもちゃの専門家を育成する講座を開講しています。法人活動の詳細や、寄付金などのお申し込みについては、当法人webサイトよりご確認ください。



[芸術と遊び創造協会](#)


[検索](#)

[東京おもちゃ美術館](#)

[検索](#)

ウッドスタート宣言自治体 ※2023年1月現在 4県・54市区町村

北海道雨竜町・青森県六ヶ所村・秋田県由利本荘市・秋田県大館市・福島県飯舘村・福島県国見町・福島県塙町・群馬県上野村・群馬県みなかみ町・群馬県川場村・群馬県沼田市・埼玉県秩父市・埼玉県ときがわ町・埼玉県小鹿野町・千葉県山武市・東京都新宿区・東京都檜原村・神奈川県小田原市・富山県氷見市・長野県信濃町・長野県塩尻市・長野県大桑村・長野県木曾町・長野県佐久穂町・岐阜県美濃市・岐阜県大野町・滋賀県甲賀市・京都府亀岡市・兵庫県宍粟市・奈良県吉野町・和歌山県高野町・鳥取県智頭町・鳥根県邑南町・岡山県西粟倉村・岡山県新見市・広島県府中市・山口県長門市・徳島県那賀町・徳島県三好市・香川県まんのう町・愛媛県西予市・愛媛県久万高原町・愛媛県新居浜市・高知県越知町・高知県佐川町・福岡県那珂川市・長崎県松浦市・熊本県小国町・熊本県五木村・熊本県津奈木町・熊本県芦北町・宮崎県綾町・宮崎県日南市・沖縄県国頭村・滋賀県・徳島県・群馬県・沖縄県

 芸術と遊び創造協会

 東京おもちゃ美術館  
TOKYO TOY MUSEUM

発行日：2023年2月1日

発行：特定非営利活動法人芸術と遊び創造協会

東京都新宿区四谷4-20 東京おもちゃ美術館



木育ラボ

検索

※本誌に掲載されている情報は、2023年1月現在のものです。  
最新の情報、より詳細な情報などは当法人運営の「木育ラボ」にてご確認ください。